

兵庫県南部地震

積極的な救援活動

永平寺総持寺 曹洞宗の両大本山

修行僧や鶴見大生 ボランティア活動

曹洞宗大本山永平寺の宮崎奕保貫首は二、三の両日、兵庫県南部地震で被災した寺院の一部を南澤道人監院らと共に見舞った。また大本山総持寺（梅田信隆貫首）は、まな板・包丁・しゃもじのセット千組、炊き出し用の大釜五個を被災地に送った。両大本山とも修行僧を交代でボランティアとして現地に派遣している。

宮崎貫首が現地見舞う

永平寺の宮崎貫首は兵庫県の出身。加古川市の福田寺住職小塩■童和尚に嗣法し、神戸市兵庫区の八王寺専門僧堂で修行するなど縁が深い。このため満九十三歳の高齢を押して直接被災地を見舞ったもので、一日に車で永平寺を発ち、宗務所長の自坊である伊丹市の墨染寺に管内寺院への見舞金を渡し、宝塚市の宝泉寺、中央区の東福寺、兵庫区の八王寺、明石市の月照寺などを回った。

一方、総持寺は役寮を派遣して現地視察するとともに、被災者の求めに応じる救援措置として、まな板・包丁・しゃもじに手拭いを添えたセットを千組用意。また炊き出し用の大釜を五個手配し、それぞれ現地へ送った。

総持寺が設立母体となっている鶴見大学では学生ボランティア百十八人を登録し、六日に結団式を挙行。班別に順次現地へ派遣する。被災地の受験生に対し、檀信徒研修道場「三松閣」を無料で提供することも決めた。

梅田貫首は現在、曹洞宗管長の職にあるため、宗務庁と連絡をとりながら現地入りすることを考慮中という。

両大本山から派遣された修行僧たちは、被災地で亡くなった人々の回向に尽くしている。